

まず最初の誤文訂正をどう攻略するかが戦術的なカギ。「間違いがない場合はeを選ぶ」という形式なので、多少難易度は上がるが、それでもレベルは大したことはない。短い英文ではないものの、極端に言えば下線部だけを検証して解けば3分程度でも解ける問題(満点取るのが理想ですが、7問取れば後は長文に時間を使う方がよい)。訓練量を増やし、誤文訂正のミスのパターンを熟知していれば、解答時間を節約し、長文で時間を使えるので有利。長文問題も傾向変化は見られないし、出題パターンも決まっているので対策はしやすい。

会話問題 短い会話が5題出題され、合計10問の空所補充問題に答える形式。特にくい問題が最低2問
(~2014) は存在するが、分からない場合は考えても答えが出ないので7~8問確実に取るつもりで臨むのがよい(もちろん、知識量があれば全問解答も可能ですが)。文法や熟語の知識を試すだけの問題もあるが、選択肢が多い(それぞれ5つから1つ選ぶ)ので慎重に解こう。

空所補充問題 2015年から会話問題が消え、長文空所補充5択問題に代わった。会話問題は悪問も多かった
ので、空所補充問題に切り替わって取り組み易くなったと思われる。

長文問題

3題出題される。全問マークなので、もちろん記述問題はない。例年500～600語前後で合計1500語程度だが、2012は700語を超えるものが出題され1800語を超えた。内容真偽問題は「誤りの選択肢が露骨な間違い」を含むものが多いので素直で解きやすい問題。日本語の選択肢の問題(～2014)もあり、先に目を通しておけば、全体の内容理解が能率的に進むはず。時間をじっくり使ってスキミングし消去法を使えばかなり高い正答率を出せるはず。語義問題(同意語句選択問題)は下線部が難しくても、本文の文脈から類推できるものも多いのであきらめずに解くことが大切。

段落要旨選択問題は国際教養と法学部と形式は同じだが、難易度は低いので怖がる必要はない。

長文問題出典: Economist が目立つ。時事英語中心の出題と考えてよいが、それほど読みにくものはない。

他学部・他大学の問題との相関

誤文訂正問題は私大入試のトレンドなので、上智や立教の対策教材としても活用出来る。国公立でも出題があるので、練習をしたい人は国立・私立を問わず練習材料としてお勧め。早稲田では人間科学、スポーツ科学でも出題が見られる。

段落要旨選択問題は、早稲田・法、国際教養でも出題されるが、社会科学の問題は日本女子大などとしべ
ル、形式はほぼ同じと考えてよい。パラグラフリーディングの練習としても使える。(～2014)

会話問題は早稲田の他学部の対策教材として商・政経などを受験する人は練習しておくとい。ただ、知識を問うものが多いので、他学部のものとは少し違う点に注意。(～2014)

早稲田大・社会科学 勝利の方程式

- ① まずは誤文訂正・会話問題の攻略を！満点目指すよりも解答時間短縮で高得点がカギ！
- ② 受験生平均が高くななくても、慶應と違って合格点は高いので注意！
＜合格最低点＞ 2012: 63.9% 2013:60.4% 2014:64.0%【64%前後】
＜受験者平均＞ 2012: 45.9% 2013:41.4% 2014:50.9%
- ③ 受験生レベルは法や政経に比べると落ちる。難問が少なく、基礎～標準レベルの素直な問題が多いので「模擬試験学力」がそのまま反映されやすいタイプの問題(もちろん対策は必要だが)。
- ④ 速読力など不要。誤文訂正・**会話問題**を短時間で乗り越えれば、長文で時間が足りないことはないはず！ただし、選択肢が多めなので、丁寧な消去法で正答率UPを狙おう！
- ⑤ 早稲田は3教科バランスが勝負！英語だけ得意では勝負出来ない！
- ⑥ 英語が得意なら最低でも7割以上(9割近い高得点も可能)、苦手でも6割前後は欲しい。